

成田 歴史 玉手箱

●60回●

歴史と伝統文化の
まち・成田。市内に
は、歴史ある文化財
が多数あります。



合併記念フェスティバルで披露した「弁天娘女男白浪」(平成18年4月29日)

伊能歌舞伎

芝居への熱意と誇りを次世代に



保存会会長を務める根藤正昭さん

大栄地区に春の訪れを告げる風物詩・伊能の大須賀大神の例大祭。地元では「伊能のおあそび」とも呼ばれ、ことしは4月23日に開催。伊能1~4区の人々が毎年交代で祭囃子に合わせて踊る道中踊りや伊能歌舞伎保存会による歌舞伎公演などが行われます。

伊能歌舞伎は大須賀大神の例大祭の奉納芝居として、約300年の歴史をもつ伝統行事で、60数年前の戦争中でさえほとんど中止されることがなく上演し続けられた大栄地区を代表する郷土芸能です。「祭礼時には出店も多く、境内に入りきれないほどのにぎわいでした。歌舞伎も以前は伊能4地区が年番で行い、10代後半~20代前半の若者たちが役者から運営までも。家は畳屋でしたが、年季が明けたら歌舞伎はやるものだと。それくらい盛んでしたね」と、少年時代を振り返る伊能歌舞伎保存会会長の根藤正昭さん(伊能)。

大栄地区で前林・吉岡・津富浦・松子・馬乗里でも歌舞伎が上演され、村人が熱狂した数少ない娯楽でした。昭和36年には千葉県無形民俗文化財に指定されましたが、娯楽の多様化、高度経済成長による時代の流れに加え、火災による衣装の消失などで、昭和40年の公演を最後に歌舞伎の上演は途絶え、文化財の指定も解除されました。しかし、住民の復活を願う熱意と町おこし施策を背景に、平成10年、伊能歌舞伎保存会が結成。翌11年には34年ぶりの復活公演を果たしました。そして日々稽古に励み、今では10数演目をこなすまでに。子ども歌舞伎も復活7年目で「弁天娘

女男白浪」が全員子どもによる上演にこぎつけ、新たな役にも挑戦しはじめました。

現在、年数回の公演のほか各地から公演依頼が舞い込むほどに成長した伊能歌舞伎。しかし、「役者の高齢化や後継者問題。そして三味線や藝太夫、化粧や着付けなど自らの手で上演するまでには多くの課題が山積んでいます。4月29日の合併記念フェスティバル公演では、保存会の皆さんとともに化粧や着付けまで自分たちで行います」と語る根藤さん。今、伊能歌舞伎は、役者さんの芝居にかける熱意と彼らを支える関係者の協力で、さまざまな問題の一つひとつ取り組んでいます。

平成11年の復活公演に続き、36年ぶりに大須賀大神で行われた公演(平成13年4月22日)



昭和23年4月の大須賀大神の例大祭の様子(坂戸恒夫氏所蔵)

編集後記

取材先で、面白い話題に触れたり、子どもたちの可愛い表情を撮影したりしていると、ぜひとも広報に取り上げたいと思うのですが、締め切りの関係などで、掲載できない記事も結構あるものです。毎月1日号に掲載している「トビ

ックスなりた」は市内の身近な話題をお伝えするページ。今回から15日号にも加えることになり、これまでよりも皆さんの近くにお邪魔する機会が増えそうです。「こんなことがあるよ」の声も大歓迎です。